

歴史探訪

クラブ! 其の124

History Inquiry Club

文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

伝説の島 姫島①

三河湾に浮かぶ田原市唯一の島、姫島。市民の皆さんは、遠くからあの優雅な姿に目をとめていても、訪れたことはない方が多いと思います。

島に平地はほとんどなく、高さは62・1m、島の周囲は約4kmです。九州にも同じ名前の島があり、日本各地に同じ地名などがあります。なんととっても名前が良いですね。いづから姫島と呼ぶようになったのかは分かりませんが、江戸時代には飛

馬島と呼ばれていました。このような島です、いろいろな伝説があります。今回はそれらの伝説をご紹介します。

●でらぼっち(だいだらぼっち)伝説

大男が姫島と笠山を担いでいて、それを降ろして休憩しました。その時、つまりひざを付いた跡が芦ヶ池、汚れた足を太平洋で洗うために腰掛けたのが蔵王山といわれています。この大男、だいだらぼっちを題材にした伝説

は日本各地にあります。この地方では「でらぼっち」ともいわれています。また、大男を「弁慶」とする話もあります。

●倭姫伝説

今から2000年ほど前、当時、流行った疫病を鎮めるため、倭姫は天照大神を祭る地を探し諸国を巡っていました。船旅の途中、姫島に寄



●姫島

り、倭姫はこの島に滞在し、蚕を飼いい、その飼育方法を伝えたいといます。姫はここで亡くなりましたが、今でも蚕のエサとなる桑の木や井戸、お墓があると伝えられています。このお供だった伊勢の山田氏や小林氏が片浜の人たちの祖先で、村に山田と小林姓が多いのはこのためだといわれています。

また倭姫は、姫島に嵐で流されたという説もあります。一行を乗せた舟は伊良湖水道で暴風雨にあい、梶が折れて流されましたが、ある岬の陰で風をしのぎ命拾いをしました。この岬のことを梶ヶ崎(野田町馬草港の小山)といわれています。さらに、一向は潮に流され、姫島に流れ着きました。しばらくここに滞在し、舟を直し仁崎に渡りました。これは、天照大神をお祭りする場所の候補地として目を付けたからです。しかし適当な場所ではなかったため、世話になった村人たちへのお礼に、村の中を流れる川の名として、伊勢神宮の内宮前を流れる神聖な川、五十鈴川の名前を贈ったといわれています。

だいだらぼっちの伝説は考えられ

ないですが、倭姫の伝説の中には、姫島の名前の由来を説明する魅力的なものがあります。この伝説を証明するために、大正時代に倭姫の古墳を探そうと、島神社の神官が調査を行いました。古墳は古墳はおろか、普通の古墳の存在も確認されなかったようです。

※倭姫は、垂仁天皇の第4皇女で、日本武尊の叔母にあたり、伊勢の地に皇大神宮を祭った人とされる伝説上の人です。また姫島は、江戸時代の地理書には、源頼朝が奉納した御馬の神社(豊川市御津町)の神馬が逃げ出し、海を泳ぎこの島に来たという話から、飛馬島とも呼ぶそうです。(増山)

今月の「表紙」

▼蔵王山の向こうに見えるた入道雲に誘われ白谷海岸へ。そこに広がっていたのは、青い空に青い海、まさに常夏の風景でした。その暑さに感わされたのか、広報たはらクイズ7月号の答えが、意味不明な言葉になってしまい申し訳ありませんでした。今回は、ご応募いただいた方は全員正解とします。(〇)

【表紙の写真】白谷海水浴場